

祝辞

寒かった今年の冬にもようやく終わりをつげ、紫野キャンパスにも暖かな春の気配が感じられる季節となりました。本日卒業を迎えられました178名の皆様、大学院を修了された39名の皆様、誠にとおめでとうございます。通信教育課程の同窓会組織である鷹陵同窓会を代表して、皆様のこれまでのご努力に対して敬意を表し、心よりお祝い申し上げます。

皆様は入学を志した日から今日まで、学ぶことの喜び、そして苦しみなど、様々な体験をされてきたことと思います。通信教育で卒業をすることは容易なことではありません。毎日が自分自身との戦いの場であり、自ら学習計画を立て、自らを律し、自分で自分を励ましながら、今日のよき日を迎えられたことと存じます。今、皆様方の胸の中には、様々な思いが去来し、大きな満足感が得られているのではないのでしょうか。

これらの苦難を乗り越えて、ここに晴れの授与式を迎えられ証書を手にした皆様本当におめでとうございます。

さて、私事で恐縮ですが、思い起こせばちょうど20年前の2005年3月25日に皆様方がお座りになっているその席に私自身が着席していました。通信教育課程で大学を卒業後、大学院社会学研究科に入学した私は、20名の仲間とともに勉学に励みました。学習の困難さを痛感していた私たちは、月に1度、紫野キャンパスに集まり、学習の進捗状況の情報交換や課題対応への参考文献等の照会をしあい、20名中18名が修了することができました。修了式当日には配偶者を同伴し、知恩院を拝観後、修了記念の懇親会を開催しました。各人が家族に感謝の意を伝えたことを思い出します。

佛教大学通信教育の精神は、法然上人が遠く離れた地方に住む弟子や信徒に対して教えを伝えた、御消息と云う手紙にあると伺っております。この精神を受け継ぐ伝統ある佛教大学の卒業生であることは、私たちにとって大きな誇りであり、本日皆様が手にした卒業証書や学位記は、学業成就の証であると共に、そこに込められた法然上人の精神をもって、私たちと大学を繋ぐ絆ともなります。

私達の鷹陵同窓会は、昭和31年に第一期生の有志により立ち上げられ、日本国内に支部を置き、現在、2万3千人以上の同窓会員を擁し、在学生との交流も図り、研修会、講演会を実施し、地域を跨いでの活動も活発に行われています。

私が所属している神戸・兵庫支部では、年1回の総会と懇親会を8月に、史跡や美術館等を訪問し、新たな見識を深める研修会を10月に実施しています。同窓会とは不思議なもので、佛教大学の卒業生というだけで新たに参加した人も旧知のような仲間になってしまいます。私自身、同窓会は成長と心の拠り所の場と思っており、先輩や多くの仲間との交流によって、思わぬ人脈が広がり自身の成長に大いに役立っていると感じています。

卒業・修了された皆様方には、是非とも鷹陵同窓会に入会していただき、在學生との橋渡し役として、今後ともご縁をいただければ幸いです。『心のふるさと佛教大学』で、ご縁の糸で結ばれた皆様方とまたお会いできることを期待しております。

最後になりましたが、皆様ますますご健勝でご活躍されますことを祈念し、併せて母校のさらなる発展を願って、お祝いのことばといたします。

令和7年3月25日

佛教大学鷹陵同窓会 副会長 寅屋 壽廣